

国際関係概論 23

林 光

2007年12月6日 木曜日

0 事務連絡

レポート受付は一応終了
年内は次回(12/13)が最終回

1 第一次世界大戦

2 第二次世界大戦

2.1 原因

- 国際レベル
 - － ドイツによるリベンジ¹
- 国内レベル
 - － 経済・社会の崩壊²
 - － イデオロギー対立
- 個人レベル
 - － ヒトラーの野望

2.2 経過

2.2.1 欧州戦域

中産階級の不満を背景にヒトラー台頭
再軍備と近隣の小国への拡張³
フランスへの電撃戦
英国上空の戦い
独ソ戦

¹ヴェルサイユ体制下での巨額賠償や東部領土喪失が不満
²世界大恐慌の原因は？近隣窮乏化政策？最近の説：各国が金本位制へ固執したため？
³スペイン内戦，オーストリア併合，ズデーテンラント併合，チェコ併合，ポーランド分割

2.2.2 太平洋戦域

日中戦争

関東軍の独走 = 満州占領
傀儡政権(満州国)樹立
華北への浸透工作
蒋介石のテロ・開戦決意
西安事件で蔣の権威 独裁確立
盧溝橋事件(偶発的ですが収束)
第二次上海事変(意図的 = 蔣による戦争開始)⁴
南京事件
和平工作不調・泥沼化

日本：殲滅戦略：ハードパワー
中国：消耗戦略：ソフトパワー

表 1: 日本 = ファシズム？

独伊ファシズム	日本の戦時体制
権力の篡奪	権力の継続
× 正統性	正統性
はったりめいた 劇場型政治， 未来への幻想を ふりまく建築．	つらくきびしい 現実への覚悟を もとめる建築． (木造バラック)

日米戦争

当初米は対日宥和的 しかし次第に強硬に⁵
日独伊三国同盟⁶

⁴蒋介石は一時ナチスドイツにかぶれていたファシスト。国民党軍はハード(武装)・ソフト(軍事顧問団)ともにドイツ式だった。
⁵米国民の世論が中国に同情的
⁶近衛はソ連を加えた四カ国同盟を期待。日本国内の新体制運動との連動(計画経済等)を企図。しかし独ソの交渉は不調に終わったため、結局危険な三国同盟のみが残り、米の不信と敵意を招いた。

日本の南部仏印進駐⁷ 米の対日石油禁輸⁸
日本の真珠湾攻撃⁹ アメリカの参戦
半年間は日本優勢 米の反攻
原爆投下
ソ連参戦

2.3 結果

- 欧州の没落
- 植民地独立
- 米ソ二極

3 冷戦

戦後の安保構想 = 米英ソ中の四人の警察官
しかしすぐに米ソ対立が顕在化

3.1 国際連合

国際連合 = 集団安全保障体制¹⁰

- 互いに侵略しないことを約束¹¹
- 万が一侵略があれば全員で制裁¹²

しかしすぐに機能不全

- 客観的条件の未成熟 (× ほぼ均等な BoP)
- 主観的条件の未成熟 (× 平和の不可分性)

安保理における拒否権 (五大国の特権) = 「ヒューズ」

⁷背景には陸軍と海軍の対立。海軍が恐れていたのは、陸軍が(独ソ戦に便乗して)ソ連に対しノモンハン事件の復讐戦を挑むこと。というのも、それは第二の支那事変を意味し、日本のなけなしの資源はすべてその戦いに消費されてしまうから。陸軍に対ソ戦をさせないために、その関心を南方に向けさせることを企図した。実は陸軍は喜んだ。ノモンハン事件以来の陸軍不信感をマニラ・シンガポール攻略等で解消できるはず。対米戦を望まない海軍は頭を抱えることに。

⁸近衛は中国撤兵を約束してでも米大統領との直接会談で状況を打開する意思。米政府は日本を信用せず時間稼ぎ。存亡の危機にある英を助ける = 日本の対英宣戦を避けるため + 対日戦準備。しかし、独ソ戦開始で英が負けないことがはっきりしたため対日強硬策へ(日本がその気なら受けて立つ! 国内の孤立主義を解消するのにむしろ都合)。

⁹米はマニラ来襲を予想していたので不意をつかれた。

¹⁰Collective Security system = “One for all, All for one.”

¹¹仮想敵国をも作らない。

¹²仮に英が侵略を犯したら米はソとともに英を制裁する?!

3.2 超大国間

核戦争の危機

3.3 第三世界

第三世界は米の大戦略にとって重要か?

4 参考文献

国際紛争 (ナイ: 有斐閣)

軍事学入門 (別宮暖朗: 筑摩文庫)

敗者の戦後 (入江隆則: 筑摩文庫)

大東亜戦争の謎を解く (別宮暖朗他: 光人社)

日米開戦の謎 (鳥居民: 草思社)

日中戦争 (小林英夫: 講談社現代新書)

夢と魅惑の全体主義 (井上章一: 文春新書)

第1次大戦 (by 別宮暖朗)

<http://ww1.m78.com/index.html>